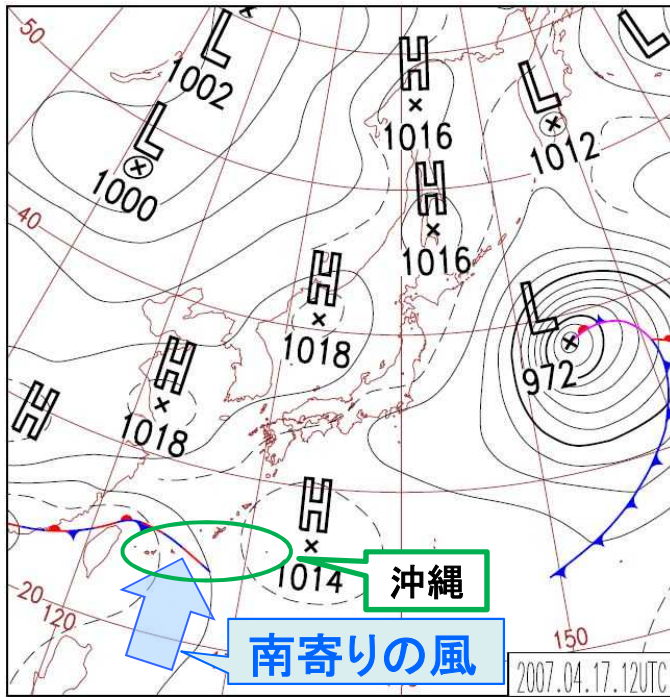


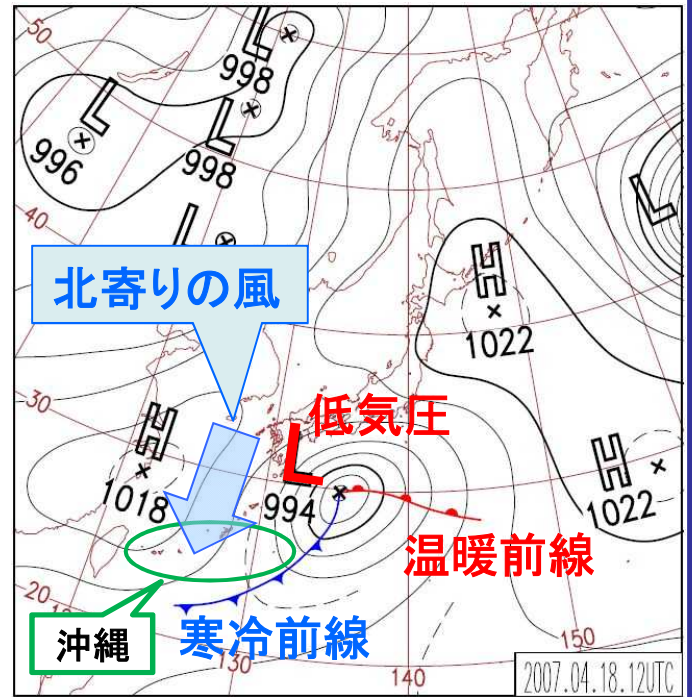
コラム②：ニンガチ・カジマーイ（二月風廻り）

季節が冬から春先になると、西高東低の「冬型の気圧配置」は長く続かなくなり移動性高気圧と低気圧が交互に東シナ海を東進するようになります。この時期、沖縄付近で発生した低気圧が急激に発達し、寒冷前線とともに沖縄を通過し、風向きが急変して荒れた天気となる日があります。沖縄では、これを昔からニンガチ・カジマーイ(二月風廻り)と呼んでいます。二月風廻りの起源は、十五世紀にさかのぼり、旧暦2月(3月頃)の荒天を指す言葉として史書に記載されています。天気の急変が激しく、この様子を先人は「風廻り」と表現したと考えられます。

平成19年4月17日21時



平成19年4月18日21時



地上天気図の説明(左図:平成19年4月17日21時、右図:平成19年4月18日21時)

4月18日は、低気圧が急速に発達しながら東シナ海を東進し、寒冷前線とともに沖縄地方を通過しました。このため、南寄りの穏やかな風が急に強まった後、北風に急変し、沖縄地方は荒れた天気となりました。(4月18日の最大瞬間風速は、那覇で23.4m/s、南大東島で31.0m/s、宮古島で22.8m/s、石垣島で25.8m/sでした。)

気象庁マスコットキャラクター
はれるん



平成19年4月18日午前8時頃、宮古島市では、竜巻による局地的な突風があり、ビニールハウスの倒壊や剥離、サトウキビの倒伏などの被害が発生しました(下写真:4月19日撮影)。



倒壊したビニールハウス



倒伏したサトウキビ

沖縄気象台提供